

10-2 松本城クイズ38 辻新次・福島安正・沢柳政太郎・木下尚江について
(解答・解説)

松本城管理事務所研究室

1、辻 新次(しんじ)は、藩校崇教館(そうきょうかん)で儒学を学び、洋学を志し、維新後開成所教授試補、大学助教授を経て明治5年(1872)校長となった。次の中のどこの校長となったか、一つ選びなさい。.....②



松本藩士辻大淵介如水の二男として上土町に生まれた。崇教館では抜群の成績であった。その後勉学に、武芸に、蘭学と励んだ。ついに20歳の時、江戸遊学が実を結び蘭学や英学を学んだ。その後は砲術研究等を試み、また開成所に通学した。そこで佛学を教授した。明治元年東京に開成所が設立され、教授試補を、明治2年には大学少助教、同4年には大助教授に任ぜられた。明治4年文部省に入り、学制、教育令や学校法令の立案に参画した。明治5年2月大学南校校長に任ぜられた。

2、明治5年明治政府により学制が頒布されたが、この立案は主として辻によるものであった。明治13年(1880)文部大書記官、18年には文部大臣官房長兼学務局長、翌19年には文部次官となった。明治25年(1892)に免ぜられるまで25年間在職した。辻 新次は何と呼ばれていたか、次の中から一つ選びなさい。.....①

明治13年文部大書記官に、18年には文部大臣官房長兼学務局長、19年文部次官に任じた。明治25年病のため本官を免ぜられるまで25年間の長きに渡って在職し、文部省の生き地引といわれた。

3、松本藩士の子として生まれた福島安正は、どこの町で誕生したか、次のうちの中から一つ選びなさい。.....③



福島安正は、嘉永5年(1852)松本藩士福島安広の長男として西町(現北深志2丁目)に生まれた。左の写真は、現在は「小公園」となっていて、公民館もあり公共施設の場となっている。福島家の屋敷があった地籍である。安正の遺書により、彼の生誕地は松本市に寄附をされた。

4、福島安正は、明治20年(1887)ドイツ公使館付武官となり、陸軍少佐であった。24年には任期が終了し、帰国するにあたり単騎遠征の計画をした。政府の許可を得て、25年2月11日ベルリンを出発し、愛馬の交代、夜の夜行、厳しい寒さ、落馬して負傷等の苦難を征服して、26年6月12日ウラジオに無事到着した。実に3500里、488日の横断であった。福島の口口は、国民の志気を奮いたたせた。口口に入る言葉を一つ選びなさい。.....②

「シベリヤの単騎横断」 488日、14000kmにおよび、苦難の数々を乗り越えての単騎シベリヤ横断であった。この旅行中中佐に進級、大正3年(1914)大将に任ぜられた。

5、福島安正と幼少時代からの親友で、松本藩の藩儒(はんじゅ)を務め、比較的家も近くであった人は誰か。次の中から一つ選びなさい。.....①

松本藩士河原 忠(としな)である。安正とは家も近所で、幼友達であった。河原 忠の娘として生まれたのが河原操子(かわはらみさこ)である。

6、藩士出身の左の写真の人物は誰か。次の中から一つ選びなさい。・・・・・・④



沢柳政太郎（まさたろう）の写真である。

慶応元年（1865）松本藩士沢柳信任（のぶとう）の長男として、松本天白町に生まれる。開智学校に入学、その後一家あげて東京へ。東京師範学校附属小学校、府立中学校、東京大学文学部を卒業した。直ちに文部省に入り、文部試補、文部大臣秘書官兼文部書記官、文部官房図書課長を歴任した。

7、上記写真人物は、東京大学卒業後文部省に入り、一高、二高の校長などを経て文部次官に、そして大学の総長に就任した。明治・大正時代の代表的な教育者である。次の中からどこの大学の総長に就任したのか、二つ選びなさい。・・・・・・①、④

文部次官在任の間に義務教育の6ヶ年延長と東北大学、九州大学を設立し、**東北帝国大学総長、京都帝国大学総長**を歴任し、改革刷新にあたった。

また、成城小学校を創設して、新教育運動の先駆け（さきがけ）を果たし、生涯を教育に尽くした。なお、辻 新次・沢柳政太郎ともに松本高等学校設立にあたって小里頼永市長に協力を惜しまなかった。



8、天白町の松本藩士・木下秀勝の長男として生まれた木下尚江は、開智学校から長野県中学校松本支校、東京専門学校に学んだ後、松本で を開業した。
 の中に入る職業を一つ選びなさい。・・・・・・②

松本中学校、東京専門学校（現早稲田大学）を卒業して、松本の信陽日報記者となるが、分県論を唱えて失職し、松本で**弁護士**を開業した。生家は今島立の歴史の里に移築復元されている。



9、明治37年（1904）元旦から連載された小説は、社会主義小説の先駆（せんく：さきがけの意）として高く評価された重要な作品であった。この小説名は何というか、次の中から一つ選びなさい。・・・・・・④



明治26年（1893）百瀬興政（おきまさ）らと松本美以（みい）教会で中田久吉牧師により洗礼を受けた。後明治29年に山形村の中村太八郎と平等会をつくり、翌年普通選挙運動期成同盟会を設立し「普通選挙ヲ請願スルノ趣旨」を書く。当時会員は数百名で、中村・田村武七とともに幹事となって運動を推進した。その後、毎日新聞記者となり、娼婦論・普選論・非戦論を唱えた。明治37年元旦から毎日新聞に連載された小説「**火の柱**」で、社会主義小説の先駆けとして評価された作品であった。その後「良人の自由」も毎日新聞に連載した。二つの小説は彼の代表作である。

10、下記に木下尚江が生涯に交わった人物名をあげてある。この中で交わらなかった人物を次の中から一人選びなさい。・・・・・・⑤

- 浅井 洌・・・・松本中学校時代教師であった洌の自習学者で漢文・和文を学ぶ
- 百瀬興政・・・・彼の従兄（後松本市長になる）
- 中田久吉・・・・キリスト教洗礼の時の牧師
- 中村太八郎・・・・平等会をいっしょにつくった
- 田中正造・・・・足尾鉍毒問題で歎談。社会主義政談演説会（栃木県佐野市）で一緒に演説